令和７年度　学校自己評価システムシート　（県立大宮商業高等学校　全日制課程）

目指す学校像	地域とともに未来を切り拓く、心豊かでたくましい生徒を育成する

重点目標	１　授業改善により、生徒の主体性を育み、学習習慣の確立と学力を定着させる。 ２　キャリア教育の充実により、生徒の進路意識を高め、進路実現を支援する。 ３　地域・保護者・外部団体との連携強化と教育活動の効果的な情報発信により、愛され信頼される学校をつくる。 ４　コミュニケーション能力の育成により、チャレンジ精神に溢れたたくましい人財をつくる。

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（　２月　１日　現在）			実施日　令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	＜現状＞ ○ＩＣＴを利用し、問題演習に活用している。アクティブラーニングなどの実践がみられる。 ＜課題＞ ○生徒が主体的に工夫し、学習習慣を身に付ける必要があり、教育活動におけるＩＣＴ等の一層の活用を推進する必要がある。	○生徒が主体的に学習活動を習慣づけ、学力の向上につなげる。	①（通年）朝の学習時間の確保、アプリケーションソフトを利用し、学習習慣をつくる。 ②（通年）ＩＣＴ機器の利用やアプリケーションソフト活用し、アクティブラーニングなどのより主体性を育むような教育活動を実施する。	①アプリケーションソフト利用頻度は増加したか。 ②－1　授業改善につながる工夫ができたか。 ②－2　ＩＣＴ機器を活用し探究活動や主体性を育むアクティブラーニングなどを実践できたか。				
2	＜現状＞ ○昨年度は就職する生徒が約48％、進学が約 52％と進学を希望する生徒が増えた。 ＜課題＞ ○受験時に必要な能力の育成と生徒の進路実現の変化に対応した進路指導を実施する必要がある。	○生徒・保護者ともに進路実現の満足度を高くする。	①（通年）進路実現の要所に進路の手引を活用し進路実現への心構えを高くさせる。 ②（通年）受験報告書などのデータを研究させ、面接や試験に臨めるようにする。	①生徒が進路の手引きの一般編や合格体験記を活用することができたか。 ②生徒が希望する進路先に合格することができたか。				
3	＜現状＞ ○自治会、施設、公民館など地域との連携や交流が増え、本校の良さが伝わっている。 ＜課題＞ ○本校の情報を積極的に発信するための手段を工夫し、地域交流を一層進める。	○ホームページ等の更新回数アクセス数を伸ばし、本校への興味・関心を引き付ける。 ○自治会や施設など地域との関りを向上させる。	①（通年）情報発信ツールを増やし授業風景の画像や実験や実技の動画を掲載する。 ②（通年）中学生や地域の方の興味関心を引き、本校の特色が伝わるような情報を発信する。 ③（通年）地域のイベントに参加する。	①行事、部活動の報告、各教科の教育活動記事の掲載・更新ができたか。 ②入試の志願倍率が１倍になったか。 ③地域イベント等へ５回以上参加することができたか。				
4	＜現状＞ ○巡回支援員、ＳＣ、ＳＳＷなどとの連携がとれてはいるが集団に馴染めない生徒も少なくない。 ＜課題＞ ○ヤングケアラーなど様々な悩みを持つ生徒に外部関係機関と連携・相談できる体制を確立する。	○外部関係機関・地域の教育力を活用し積極的な連携を向上させる。 ○様々な教育活動を通したコミュニケーションを向上させる。	①（通年）巡回支援員、ＳＣ、ＳＳＷなどとの協力による生徒の把握をおこなう。 ②（通年）担任や関係する教員、教育相談などと連携し情報共有を行う。 ③（通年）教育相談委員会と協力し、外部機関と連携する。	①巡回支援員などとの協議を担任や学年にフィードバックできたか。 ①②　生徒理解の研修会を年２回実施できたか。 ③個々に適した教育相談や外部機関に繋げられか。				